

第2回 王子駅周辺まちづくりガイドライン策定検討会

計画編②

2022年1月19日（水）

第1回検討会でいただいた主なご意見

①脱炭素（ゼロカーボン）の視点の追加

②防災の取り組みの具体化

今回（第2回）
検討会の資料で
説明

③公民連携の考え方の整理

④駅前ウォークブルエリアの名称検討

⑤まちづくりスケジュールの提示

次回（第3回）
検討会の資料で
説明

1. 検討課題について ①脱炭素：北区の脱炭素社会への取り組み



花川與惣太北区長（左）と名取ひであき北区議会議長（右）

北区ゼロカーボンシティ宣言

～2050年二酸化炭素排出量実質ゼロに向けて～

今私たちは、かつてないスピードで進む地球温暖化の影響により、「気候危機」と呼ぶべき極めて深刻な自然の猛威に直面しています。

北区は、四つの河川や南北に走る崖線といった地理的特徴を有し、水と緑のうるおいあふれるまちです。元気環境共生都市宣言を平成17年に行い、誰もが豊かで健康に暮らし続けることのできるまちを目指して、区民とともに環境問題に積極的に取り組んでいます。しかし、これからはより一層、誰もが気候危機の現状を我が事として受け止め、それぞれが「今、自分たちにできること」を意識し、温暖化の進行にブレーキをかける行動を起こしていく必要があります。

そこで北区は、強い危機感・決意のもと、「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ（カーボンニュートラル）」を目指し、ここに脱炭素社会への移行に全力で取り組むことを宣言します。

2050年は遠い未来ではありません。今を生きる私たちのみならず、これから生きる、これから生まれてくる子どもたちのために、区民や地域、事業者の皆さまと一体となり、「活力あふれる持続可能なまち北区」を明日へとつないでまいります。

令和3年6月24日

東京都北区

1. 検討課題について ①脱炭素：北区の脱炭素社会への取り組み

【概要版】北区環境基本計画改定方針 ～気候危機に立ち向かう 脱炭素社会の実現に向けて～

計画改定の背景

国際社会の動き

「パリ協定」

国際社会が一丸となって今世紀後半の「温室効果ガス排出実質ゼロ」を目指す

「持続可能な開発目標（SDGs）」

将来のあるべき姿に向かって、「環境・経済・社会の統合的課題解決」を図る

「低炭素化」から「脱炭素化」へ 向けた国内の動き

「2050カーボンニュートラル宣言」
(2020年10月臨時国会にて)

「ゼロエミッション東京戦略」
(2019年12月)

気候危機

近年顕著な集中豪雨や台風などによる
自然災害の激甚化、猛暑や感染症による
健康被害など「気候変動による影響」が
深刻化

新型コロナウイルス

感染対策及び経済回復に向けた課題
「新しい生活様式」「デジタル化」の推進

計画期間

令和5（2023）年
～令和14（2032）年

長期的目標年次：2050年
令和9年度に中間の見直し

（仮称）北区環境基本計画2023

一体化

北区地球温暖化対策地域推進計画（改定）
北区気候変動適応計画（新規策定）

改定スケジュール

令和2年度

環境審議会へ諮問

令和3年度

区民等意識調査、骨子案作成等

令和4年度

パブリックコメントの実施等、策定・公表

計画改定の基本的な考え方・ポイント

①「脱炭素」の考え方に基づく ロードマップの明示

Point

2030までを集中期間と位置づけ、
CO₂排出削減量等の新たな目標設定
再エネ・蓄電池の導入・利用拡大
EV・EV充電設備等の普及
FCV・水素エネルギーの普及
建築物等のゼロエミッション化
プラスチックごみ問題・食品廃棄物問題
への対応と資源循環の取組み
他自治体や企業との広域的連携

②SDGsの考え方を取り入れた 総合性の高い計画づくり

Point

環境面から区政全体を支える
バックキャスト思考やステーク
ホルダーの参画などSDGsの考え方
を取り入れた計画づくり
地域循環共生圏の創造
区民、事業者、民間団体等との協働の
推進体制の強化
環境学習の充実、人材育成の強化

③気候変動への適応と持続可能で レジリエントな都市づくり

Point

地域特性に基づいた気候変動適応計画
の策定
建築物等のレジリエンス強化
グリーンインフラの推進
環境に配慮した暮らし・まちづくり
公害の防止、身近な生活環境問題への
対応
協働による地域美化活動の推進

④コロナ禍からの グリーン・リカバリー

Point

環境負荷低減に向けた区民・事業者の
活動支援
「新しい生活様式」を背景とした意識
や社会システムの変化を考慮
デジタル化・脱炭素化イノベーション
の推進
身近な緑・生物多様性の保全や創出

1. 検討課題について ①脱炭素：北区の脱炭素社会への取り組み

●（仮称）北区環境基本計画2023（骨子案）より ～取り組みの体系～

目標とする環境像	基本目標	主に関連する SDGs	施策の方向性	取り組み
（仮） みんなが環境を考え、行動するまち 自然環境共生都市	1 気候変動に適応し 脱炭素を実現するまち [北区地球温暖化対策地域推進計画] [北区気候変動適応計画]	    	(1) 脱炭素社会に向けた緩和策の推進 (2) 気候変動適応策の推進	① 省エネルギー対策の推進 ② 再生可能エネルギーの利用促進 ③ 脱炭素型まちづくりの推進 ① 自然災害対策の推進 ② 健康被害対策の推進 ③ 区民生活への影響対策の推進
	2 安全・安心・快適に 暮らせるまち	    	(3) 安全・安心な生活環境の確保 (4) 快適なまちづくりの推進	① 環境汚染対策の推進 ② 身近な環境問題に関する取り組みの推進 ③ 災害に強く、住み続けられるまちづくりの推進 ① まちの美化に関する取り組みの推進 ② 良好な景観形成の推進
	3 資源循環の輪をつなげるまち	    	(5) 資源循環型システムの構築 (6) ごみの適正処理の推進	① ごみの減量化の推進 ② 資源の有効利用の推進 ③ 持続可能な消費行動への転換に向けた普及、啓発 ① 収集運搬体制の充実 ② 処理体制の充実
	4 身近な自然を守り育て、 活用するまち	    	(7) 豊かな緑・水辺の保全 (8) 質の高い緑の創出と活用	① 地域に密着した緑の保全 ② 生物多様性の保全と回復 ③ 水辺環境・水循環の保全 ① 公園・緑地の整備・維持管理 ② まちなかの緑化推進 ③ 区民とともにある緑の活用
	5 環境活動の楽しさを 未来に伝えるまち	    	(9) 環境に配慮した行動の実践 (10) 環境教育・環境学習の推進 (11) パートナーシップによる 環境活動の推進	① 環境負荷の少ないライフスタイルへの転換 ② 環境経営の推進 ① 学校における環境教育の充実 ② 地域における環境学習機会の拡充 ① パートナーシップによる環境活動の充実 ② 環境に関する情報発信の充実

1. 検討課題について ②防災：防災の課題解決に向けた考え方

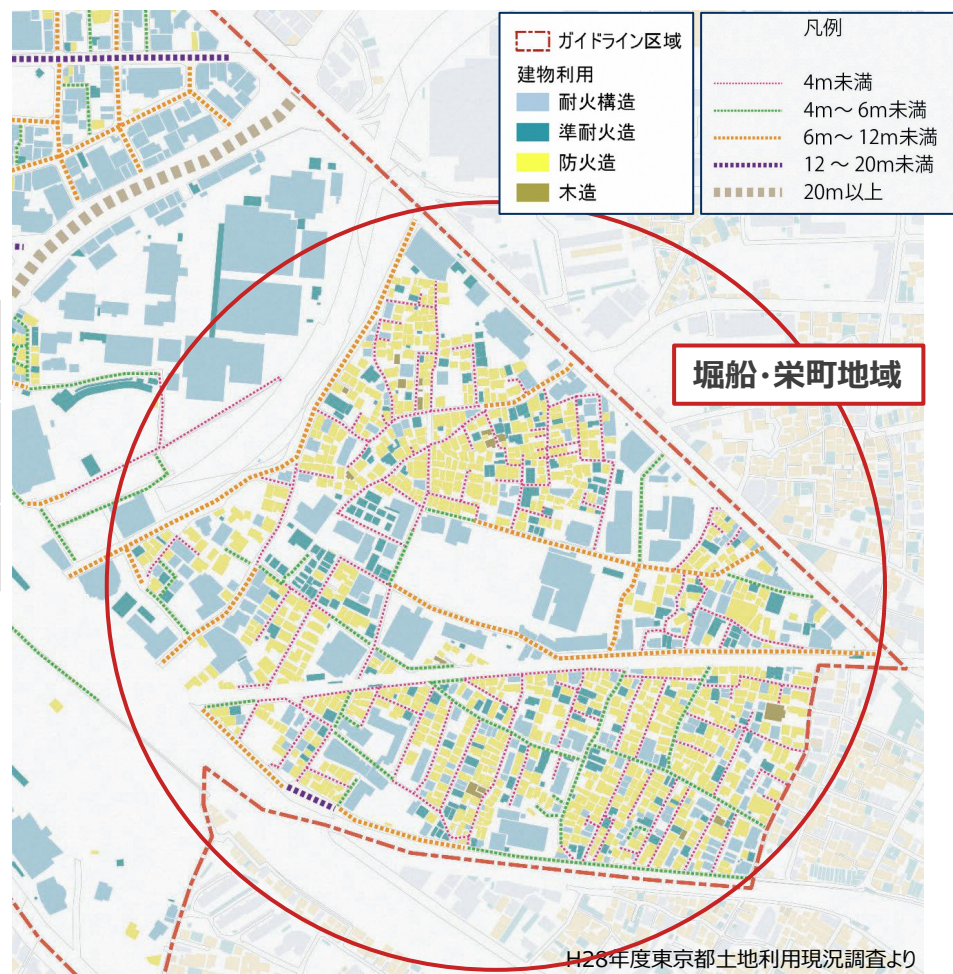
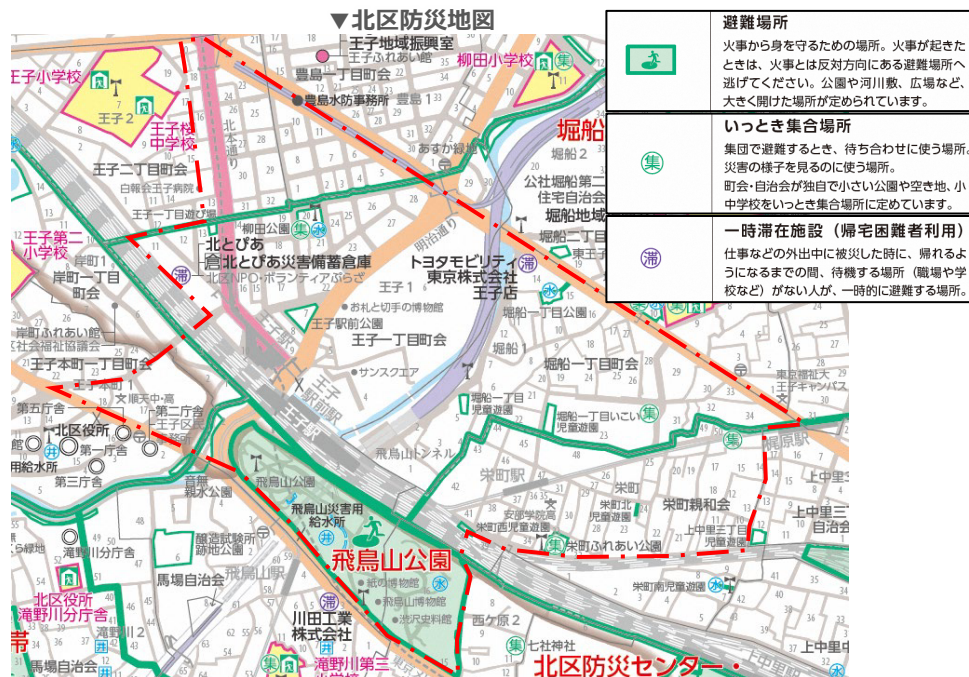
●大規模な地震災害への対応（消火活動・避難）

- ・拠点形成エリアにおいては、災害時の避難や緊急車両の通行に必要な道路ネットワークがなく、オープンスペースも不足している。
- ・「飛鳥山公園」が避難場所、「北とぴあ」及び「トヨタモビリティ東京王子店」が一時滞在施設に指定されているほか、「柳田公園」「堀船一丁目こいこ児童遊園」「栄町ふれあい公園」がいつとき集合場所として指定されている。駅周辺は来街者が多いエリアであることから、帰宅困難者対策の更なる充実が求められる。
- ・王子駅南側に位置する堀船・栄町地域では、幅員4m未満の狭い道路・行き止まり道路が多く、消防車の進入等が可能な幅員6m以上の道路が少ないため、消防活動困難区域を抱えている。

▼建物構造・道路幅員図

検討の方向性

- 新たな防災拠点となる新庁舎へのアクセスルートを確保する必要がある
- 駅周辺の再開発等にあわせて帰宅困難者対策の充実を促進する仕組みが必要である
- 木造住宅密集地域の防災性を向上させるため、災害に強いまちを構築する必要がある



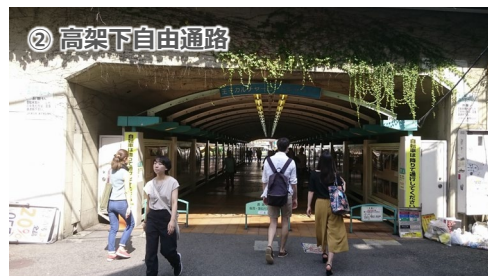
1. 検討課題について ②防災：防災の課題解決に向けた考え方

●頻発化・激甚化する水災害への対応（避難）

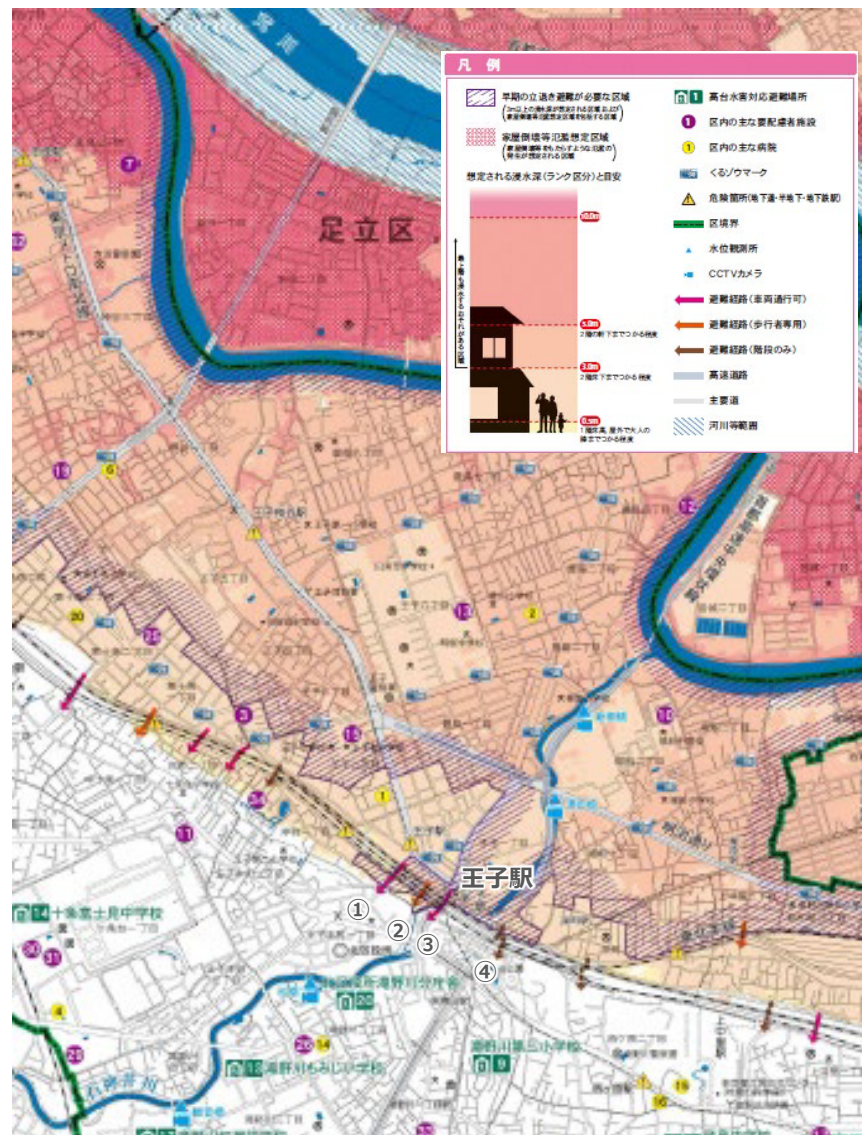
- ・北区の洪水ハザードマップでは、JR線東側の低地から西側の高台等への避難経路が示されている。
※新庁舎付近では最大約2.1m・36時間の浸水想定
- ・王子駅周辺では4箇所でJR線を横断することが可能であるが、更なる避難経路の確保・拡充が求められる。

検討の方向性

- 王子駅周辺で最も標高の高い飛鳥山公園に円滑にアクセスできる連絡通路の整備が必要である
- 東西通路整備によって、高台避難を実現させていく必要がある



▼荒川氾濫時の洪水ハザードマップ



1. 検討課題について ②防災：防災の課題解決に向けた考え方

●新庁舎建設基本計画（中間のまとめ（骨子）より）

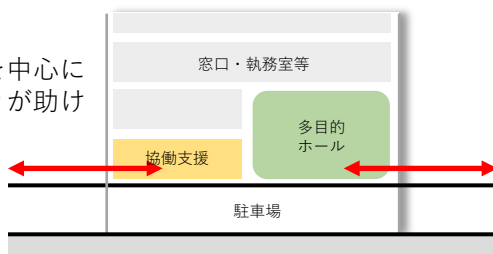
基本的な考え方

「災害への対応」と「にぎわい創出」という建設予定地における2つの課題に対応するため、3つのモデルケースを比較検討することで、設計の前提条件となる機能の配置や動線について整理し、ケース2を中心に整備基本方針へと反映させた。

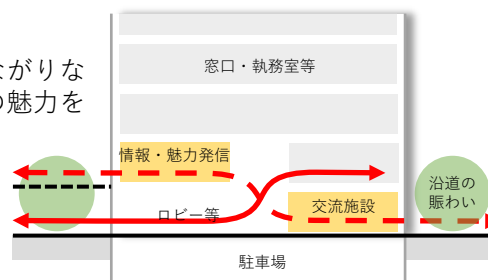
整備基本方針における防災の方向性

- ・ 災対本部としての業務継続を重視
- ・ 歩行者用デッキ整備の可能性を考慮
- ・ 災害時にも活用できる広場を整備

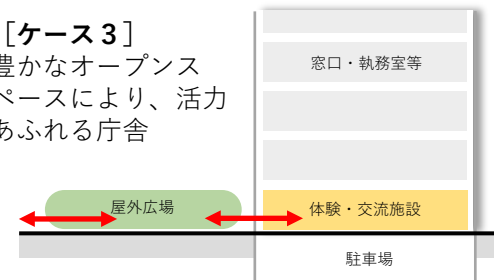
【ケース1】
高台レベルを中心に
広がり、人々が助け
合う庁舎



【ケース2】
立体的につながりな
がら、まちの魅力を
高める庁舎



【ケース3】
豊かなオープンス
ペースにより、活力
あふれる庁舎



防災拠点機能の概要

◆ 防災拠点機能の方針

- ・ いかなる自然災害が発生しても業務継続できる
- ・ 関係機関や団体と連携、協働できる
- ・ 不測の事態にも臨機応変に庁舎を活用できる

◆ 被害想定

- ・ 東京湾北部地震（M7.3）、大規模水害（荒川氾濫）、都市型水害（内水氾濫）を想定

◆ 災害対策本部の機能

- ・ 本部会議室、本部活動室、情報通信システムの整備、関係機関控室等

◆ 災害対策活動を支援する機能

- ・ 職員の休憩仮眠スペース、生活総合相談窓口、オープンスペース等



災害対策本部（川口市）

検討の方向性

○防災拠点としての新庁舎と連携した
周辺市街地の整備が求められる

2. 第1回検討会の振返り・再整理

1. はじめに

1.1.ガイドラインの背景と目的

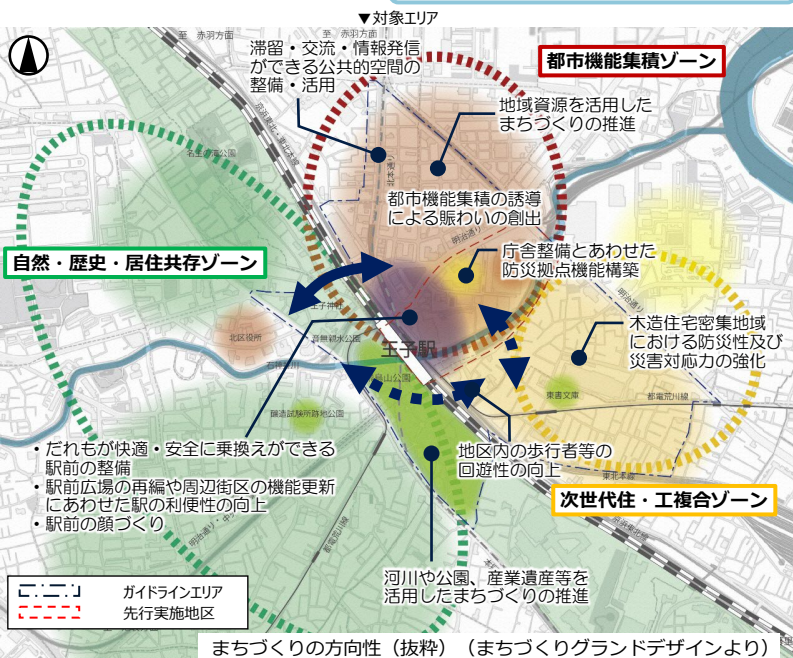
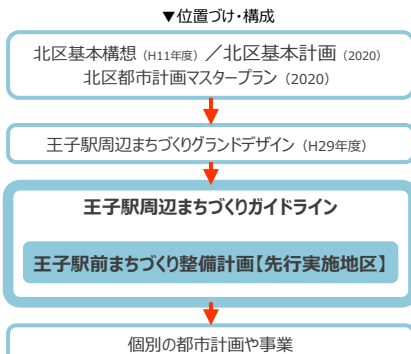
- ・新庁舎建設の具体化に伴い、道路・公園等基盤整備のあり方や、駅前の民間開発に対する誘導方針等を明確にする。

1.2.ガイドラインの位置づけ

- ・グランドデザインを具体化し、個別の都市計画や事業へとつなげていくために必要な事項を定めていく。

1.3.ガイドラインの構成と対象エリア

- ・約30年後を見据えたまちづくりの方針を示すガイドラインに、概ね15年で整備予定の先行実施地区の整備計画を内包する。
- ・グランドデザインを具体化するエリアとして、ガイドラインの対象エリアを下图のように設定する。



2. グランドデザイン後の動き

車中心から人中心の「ウォーカブル」なまちづくりへ

「つくる」から「つかう」視点での市街地整備へ

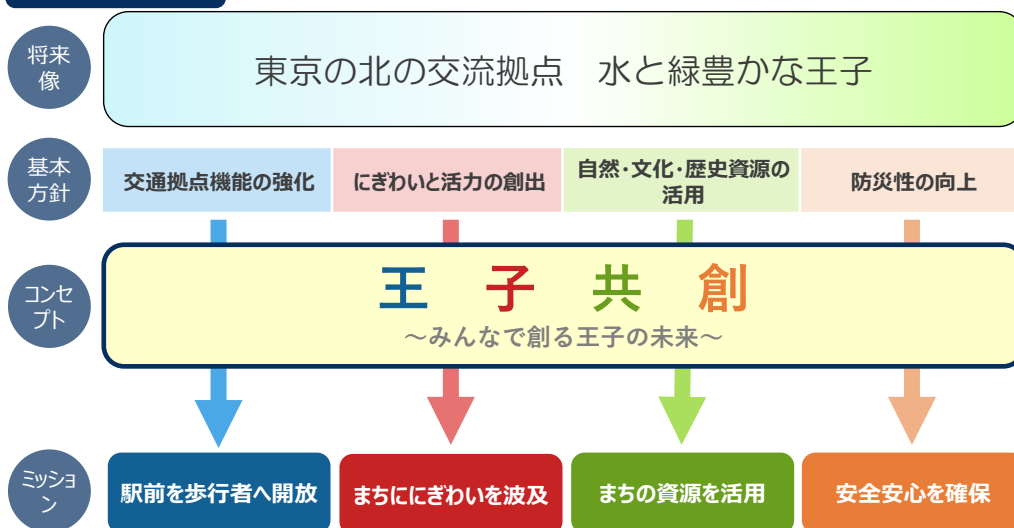
激甚化する自然災害に対する「防災・減災」の重要化

3. 魅力と課題再整理

- 視点1 「ウォーカブル」
- ・車中心から人中心の空間へと転換
 - ・街路空間を人々が集い、憩い、様々なアクティビティを繰り広げられる場へ
 - ・まちに活力とイノベーションをもたらす、都市の魅力を向上
- 視点2 「ストック再生」
- ・先行実施地区を起爆剤に、民間投資を促進
 - ・新規開発のみならず、リノベーション等による都市機能強化
 - ・自然・文化・歴史資源を活かし、王子ならではの魅力を向上
- 視点3 「防災・減災」
- ・気候変動により激甚化する自然災害を防ぐ
 - ・避難路の確保等、被害を最小限に抑えるまちづくり
 - ・高齢者、障がい者、子供など、誰もが安心して暮らせる環境を実現

	東京の北の拠点	交流の場	自然・文化・歴史資源が豊かなまち	地域を守る防災力
魅力	● 高い交通結節性 ● 公共・公益施設、業務施設の集積	● 多様な来街者によるまちへのかかわり ● 「多様なにぎわい・交流の場」「産業・商業の場」としての発展の歴史 ● 業務エリアと居住エリアが近接	● 自然・文化・歴史資源等が駅直近に点在 ● 憩いの場、産業発展の礎となった石神井川 ● 四季の移ろいとともにある王子の風土	● 地域防災拠点の刷新 ● 水害時の避難先となる高台 ● 幹線道路や駅北側の基盤
課題	● 南部エリアとの格差拡大 ● 交通拠点としての収容能力不足 ● 低い拠点性 ● 歩行者の回遊性が低い駅前	● 低い人口増加率・高い高齢化率 ● JRや幹線道路、石神井川によるまちの分断 ● にぎわい創出に寄与する施設・機能や空間の不足 ● 都市施設や建物の陳腐化	● 水の質と緑の量 ● 統一性のない駅前景観 ● 自然・文化・歴史資源の活用	● 木造住宅密集地域の災害対応力 ● 水害時の高台への避難経路 ● 帰宅困難者対策 ● 石神井川の治水対策

4. まちの将来像



2. 第1回検討会の振返り・再整理

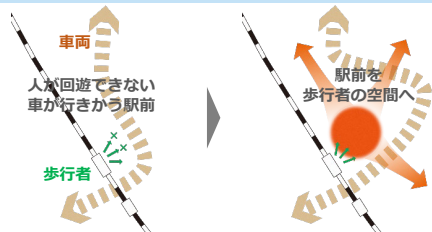
5. ミッション・戦略

駅前を歩行者へ開放

3つの駅前広場で機能を分担し、利便性と兼ね備えた交通結節機能を確保。石神井川などによるまちの分断を解消し、駅前の歩行者空間の創出をアシストする。これらにより、王子駅周辺は歩行者中心のエリアへの変貌を図る。

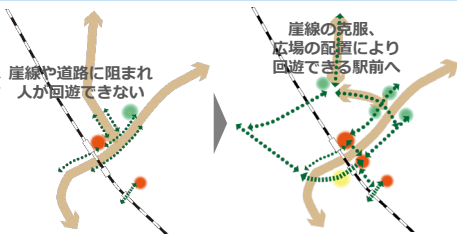
<戦略1> 駅前の歩行者空間の拡充

新庁舎整備や民間開発等により歩行者空間を創出し、人の居場所となる空間を拡充し、より快適で魅力的な王子駅前を目指す。



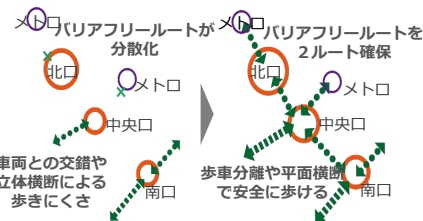
<戦略2> 駅とまちをつなぐ歩行者ネットワークの拡充

歩行者が自由に移動し、地上レベルを中心としたまちを回遊するためのネットワークを拡充する。



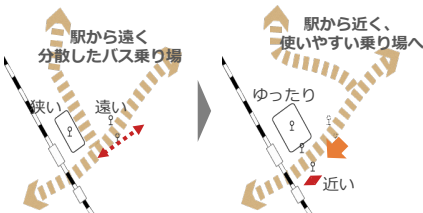
<戦略3> 安全に利用できる駅前空間の形成

高齢者や交通弱者の公共交通の利用にも配慮し、今後のまちづくりに合わせてバリアフリー乗り換えルートの拡充を目指す。



<戦略4> 分かりやすく利用しやすいバス等の乗り場形成

分散したバス乗り場を再編成し、様々な交通モードが分かりやすく利用しやすい乗り場の形成を目指す。

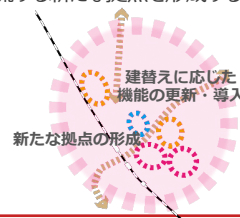


まちにぎわいを波及

「にぎわいと交流の拠点」の形成と、回遊のネットワークの形成を図り、駅前の活気ににぎわいが波及するまちづくりを推進する。

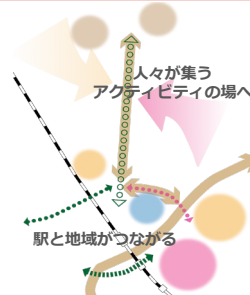
<戦略5> 都市機能が集積した新たな拠点の形成

王子駅の利便性を活かし、駅周辺の施設や建物の建替えなどに応じて様々な機能を確保することで、多様な人々が集う、出会う、交流する新たな拠点を形成する。



<戦略6> アクティビティを生み出す交流軸の形成

駅と地域をつなぎ、様々なアクティビティが生まれる、交流の場を形成する。住民や学生が連携するなど、まちに活気生まれる仕組みづくりを推進する。

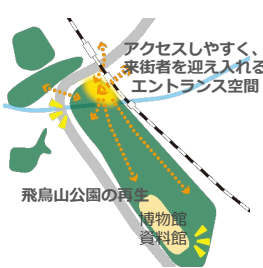


まちの資源を活用

飛鳥山公園等が持つ自然・文化・歴史のまちの資源を活かし、ポテンシャルをさらに高め、王子の顔として地域イメージの強化を図る。

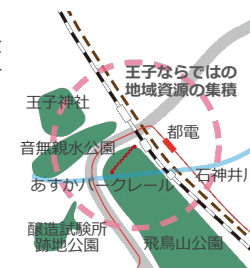
<戦略7> 王子の顔、飛鳥山公園の魅力の強化

王子の顔として鎮座する飛鳥山公園の自然・文化・歴史を活かし、より親しみやすく再生することにより、王子駅周辺の魅力を高める。



<戦略8> 自然・文化・歴史に触れる機会の創出

利便性の高い交通結節点でありながら自然・文化・歴史を感じられる駅前空間は、王子ならではの魅力であり、**みどり空間の充実や地域資源を巡るネットワークを形成していく。**

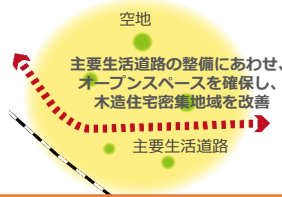


安全安心を確保

地域の防災性や災害対応力を高めるとともに、**脱炭素を目指すまちづくりなどによって、気候変動への適応により災害発生を抑制するなど、安全安心の確保を図る。**

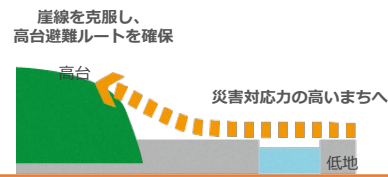
<戦略9> 災害に強い住環境の形成

堀船・栄町エリア等の、工場等の施設が点在する木造住宅密集地域では、災害時における緊急車両の通行を確保する主要生活道路の整備やオープンスペースの確保等により、防災性および災害対応力の強化を図る。



<戦略10> 防災時に備えたまちの災害対応力の強化

万が一の水害時に備えた高台避難ルートの確保や、地震時の帰宅困難者対策の推進、的確な避難誘導の仕組みを整えるなど、まちとしての災害への備えを高める。



2. 第1回検討会の振返り・再整理

6. まちづくりプロジェクト

ミッション：駅前を歩行者へ開放

①駅前の歩行者のたまり空間の確保

- ・新庁舎と駅を結ぶ動線上に歩行者のたまり空間を確保するため、駅前の開発にあわせて、新たな**広場機能**の整備を誘導します。

②歩行者ネットワークの強化

- ・鉄道や崖線による分断を解消し、明治通り・石神井川を横断する歩行者ネットワークを整備します。

③来街者を迎え入れるエントランス空間の魅力化

- ・駅から新庁舎や飛鳥山公園へのアクセスルート上に、来街者が交流し、まちへのエントランス空間となるひろば等を整備します。

④北口・中央口での歩行者・自転車の交錯解消

- ・歩行者と自転車の交錯を解消するため、ウォークブルエリアの縁辺部に駐輪場の再配置を推進します。

⑤北口駅前の車両の通過交通を抑制

- ・北口広場の歩行空間の拡充に向けて、王子駅前～北本通りの通過交通の抑制を図るため、迂回ルートとなる道路の整備・改良を検討します。

⑥バリアフリー乗り換えルートの拡充

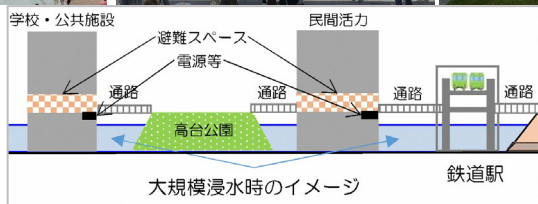
- ・高齢者や交通弱者の公共交通の利用にも配慮した、JRとメトロの乗り換えバリアフリールートの拡充を検討します。

⑦バスのりばの効率性、利便性向上

- ・北口広場と周辺の道路上に分散している路線バスのりばの集約化を検討します。

⑧広場の機能再生

- ・北口・南口の**既存の広場**と**新たな広場空間**の役割を明確にした上で、広場を**整備**します。



ミッション：まちににぎわいを波及

⑨駅前の利便性を活かした「にぎわい拠点」の形成

- ・駅前の各街区においては、「にぎわい拠点」の形成に向けて、土地の有効・高度利用と商業・業務・文化等の都市機能の充実を図るため、区と権利者との協働により再開発を促進します。

⑩既存ストックを活用した機能更新

- ・基盤の整った北本通り沿道や明治通りの北側は、既存ストックを活用して、**コワーキング等新たな業務機能を誘導し**、職住近接の**まちづくり**を推進します。

⑪駅とまちをつなぐ交流軸の形成

- ・駅前のにぎわいを周辺市街地へと波及させ、地区全体の活性化を図るため、「にぎわい拠点」と周辺市街地を結ぶ道路整備を推進し、沿道の街並み形成を誘導します。

ミッション：まちの資源を活用

⑫民間活力の導入による飛鳥山公園の再生

- ・駅前に活気と賑わいを生み出すために、地区の顔である飛鳥山公園を民間活力により再整備します。

⑬飛鳥山公園へのネットワークの強化

- ・飛鳥山公園を中心とする観光周遊動線を形成するため、遊歩道や立体横断施設等を整備します。

⑭水と緑のゆとりを感じる新たな空間の創出

- ・水と緑豊かな空間を創出するため、石神井川遊歩道、RSS及び北本通りの再整備を推進します。

⑮王子ならではの歴史や文化の魅力発信

- ・交流人口の増加を図るため、王子ならではの魅力的なイベントや情報発信のツールを検討します。



ミッション：安全安心を確保

⑯木造住宅密集地域の改善

- ・堀船・栄町地区において、木造住宅密集地域の改善を図るため、避難経路となる道路の整備と、建物の不燃化を促進します。

⑰水害時の高台避難ルートの確保

- ・石神井川の治水整備や下水道整備等により水害リスクの低減を図るとともに、万が一の水害に備えたりリスク回避のまちづくりとして、東側の低地からJR線や石神井川を越えて高台へ避難できる**歩行者動線**を整備します。

⑱災害対応拠点の形成

- ・大規模災害時の防災拠点機能を新庁舎へ導入し、災害対応拠点の形成を図ります。

2. 第1回検討会の振返り・再整理

7. エリアのまちづくり方針

■ (仮称) ウォーカブルエリア

- ・鉄道駅を中心に、公共交通の利便性を高め、安全・快適な歩行者優先の空間形成を図るエリアです。
- ・歩行者優先で回遊性の高いまちづくりを推進していくエリアとして、道路・鉄道・河川等による分断を解消し、多様な人々が自由に行き来でき、歩きやすいだけでなく、集い、憩い、多様な活動を展開できるゆとりある空間づくりを推進します。

■ 地域交流エリア

<エリアの特性>

- ・広幅員の北本通りに面するエリアです。学校などにつながる北本通り沿道には商店が、駅近くには北とびあがあります。

<まちづくりの方向性>

- ・北本通り沿道の公共的空間の充実を図り、来街者や地域住民等によるコミュニティの交流を促進するエリアです。

■ 自然・文化・歴史エリア

<エリアの特性>

- ・東京十社である王子神社は当初、王子権現という名称で、現在の『王子』の地名の由来ともなっている、自然と文化と歴史が一体となったエリアです。

<まちづくりの方向性>

- ・駅前から連なる商店街と王子神社及び参道の趣のあるまち並みの調和を図ります。
- ・王子神社の歴史を守りつつ、周辺地域では歴史的環境の保全により付加価値を向上します。

■ 公園エリア

<エリアの特性>

- ・王子の最大の観光資源である唯一無二の存在＝飛鳥山公園が位置します。

<まちづくりの方向性>

- ・王子駅周辺の顔として、飛鳥山公園のさらなる魅力向上と、周辺の回遊性向上に資する再整備を図ります。

■ 都市機能誘導エリア

<エリアの特性>

- ・道路や公園などの基盤整備が完了しており、比較的新しい建物が建ち、商業・業務・住宅が混在するエリアです。

<まちづくりの方向性>

- ・質の高い都市ストックを活かし、王子駅周辺の商業・業務集積を支え、職住近接の市街地を実現していくエリアです。

■ 拠点形成エリア

<エリアの特性>

- ・過去には製紙工場が立地し、王子のまちをけん引してきたエリアです。現在は印刷局の工場や商業施設が位置します。

<まちづくりの方向性>

- ・商業・業務・住宅等の複合的な土地利用により高度利用を促進し、王子の顔にふさわしい、魅力ある拠点形成を図るエリアです。

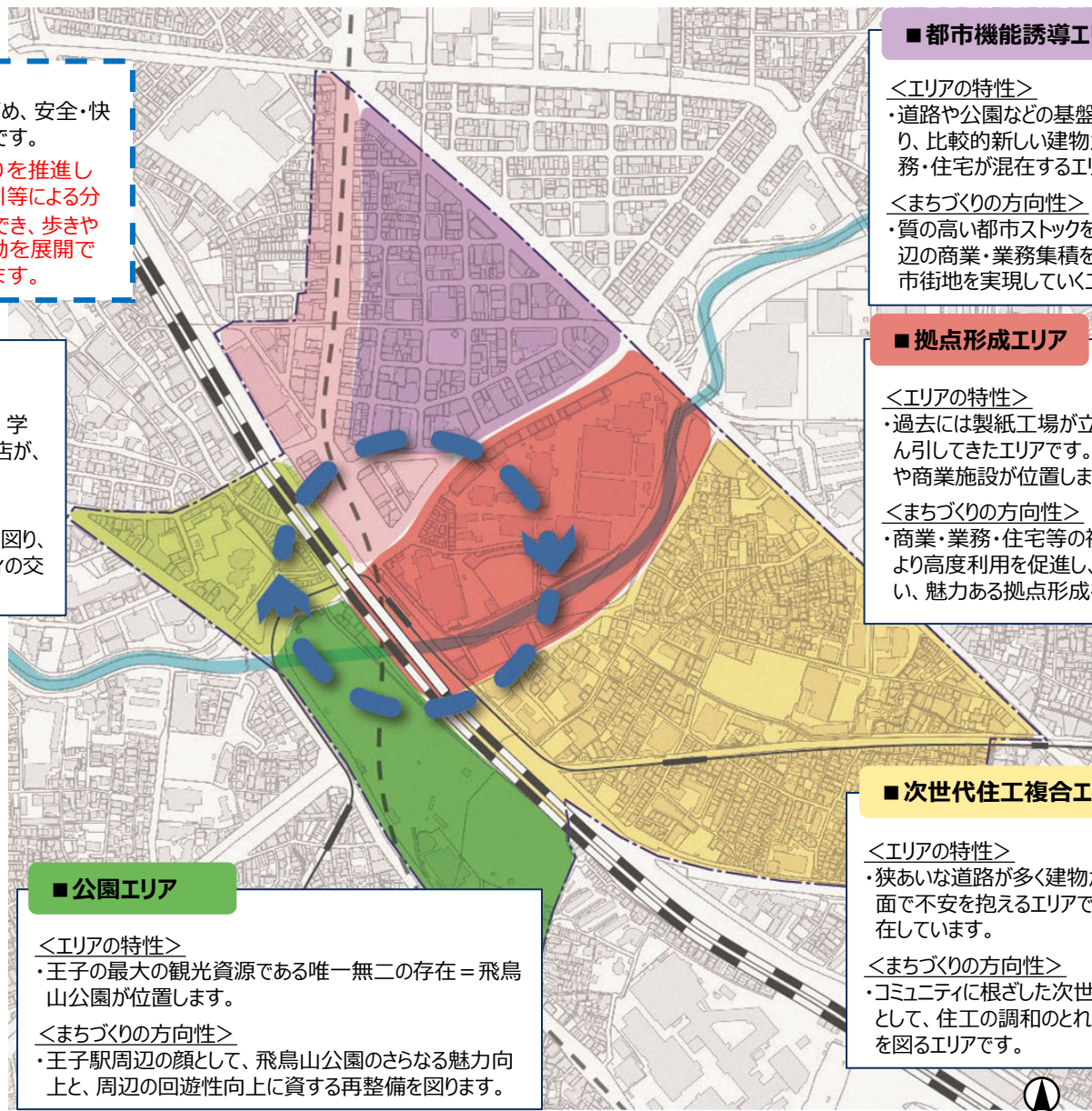
■ 次世代住工複合エリア

<エリアの特性>

- ・狭い道路が多く建物が密集しており、防災面で不安を抱えるエリアです。住宅と工場が混在しています。

<まちづくりの方向性>

- ・コミュニティに根ざした次世代の居住・産業の場として、住工の調和のとれた複合市街地の再生を図るエリアです。



2. 第1回検討会の振返り・再整理

8. まちの骨格軸

各エリアの連携を支える骨格軸の形成

- 石神井川軸と崖線軸が交わり6つのエリアをつなぐエリアをウォーカブルエリアとして、周辺エリアとの連続性・回遊性を確保します。
- ウォーカブルエリア内では、既存の道路空間の再配分により、歩行者中心の空間形成を目指します。

<交流軸・防災軸>

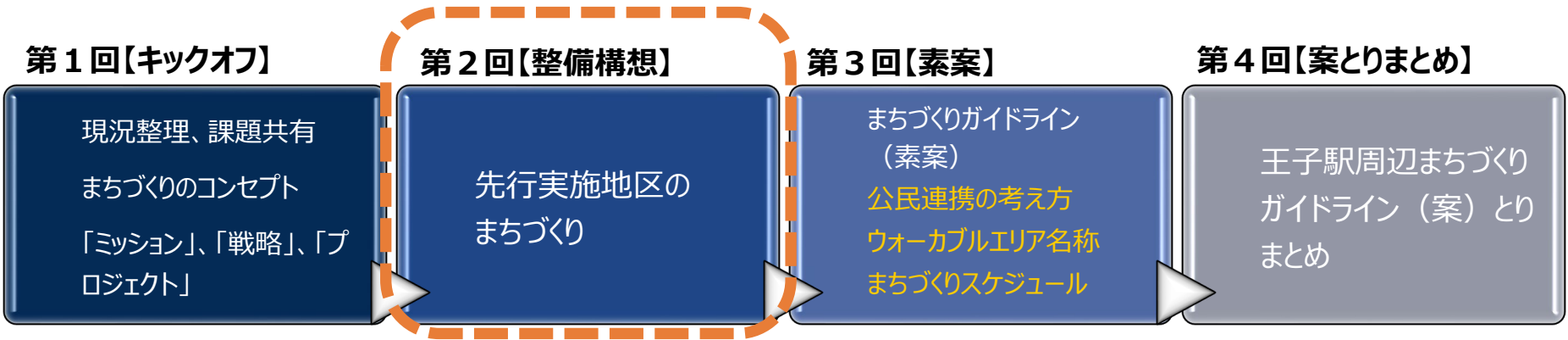
ウォーカブルエリアと周辺エリアをつなぎ、地区全体の魅力向上を図る軸の形成を図ります。

- 北本通りのゆとりある道路空間を活かし、後背地の住民・従業者・学生等の交流の場としてアクティビティを創出し、魅力的な都市機能の立地を図る南北交流軸
- 王子駅南側広がる住工複合エリアで、防災性及び災害対応力の強化をするための空間形成を図る東西防災軸



3. 本日の議論テーマ

令和3年（2021年）			令和4年（2022年）												令和5年（2023年）		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1回検討会			第2回検討会				オープンハウス		第3回検討会			第4回検討会		パブリックコメント			ガイドライン策定



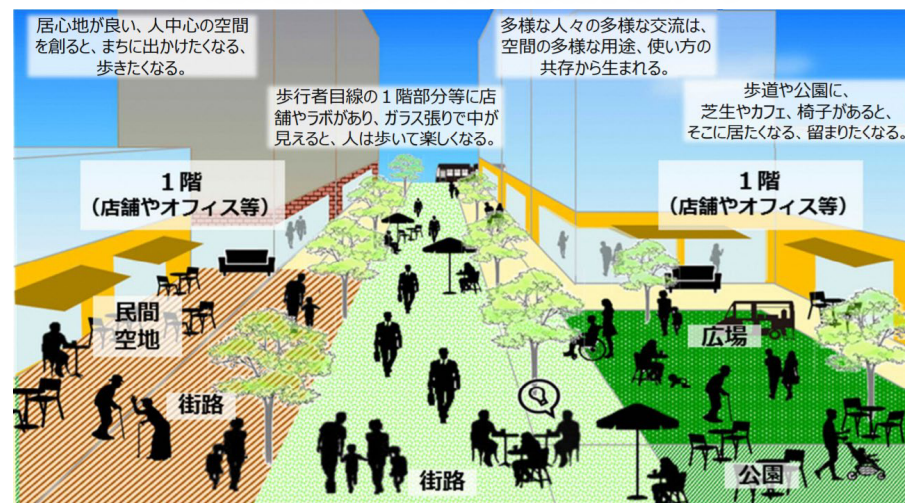
4. (仮称) ウォーカブルエリア内の新たなネットワーク形成の必要性

● (仮称) ウォーカブルエリア内の整備方針

(仮称) ウォーカブルエリア内では、歩行者がただ歩きやすいだけでなく、居心地が良く、人中心の空間を創出し、そこで集い、憩い、多様な活動を展開できる空間づくりを推進する。

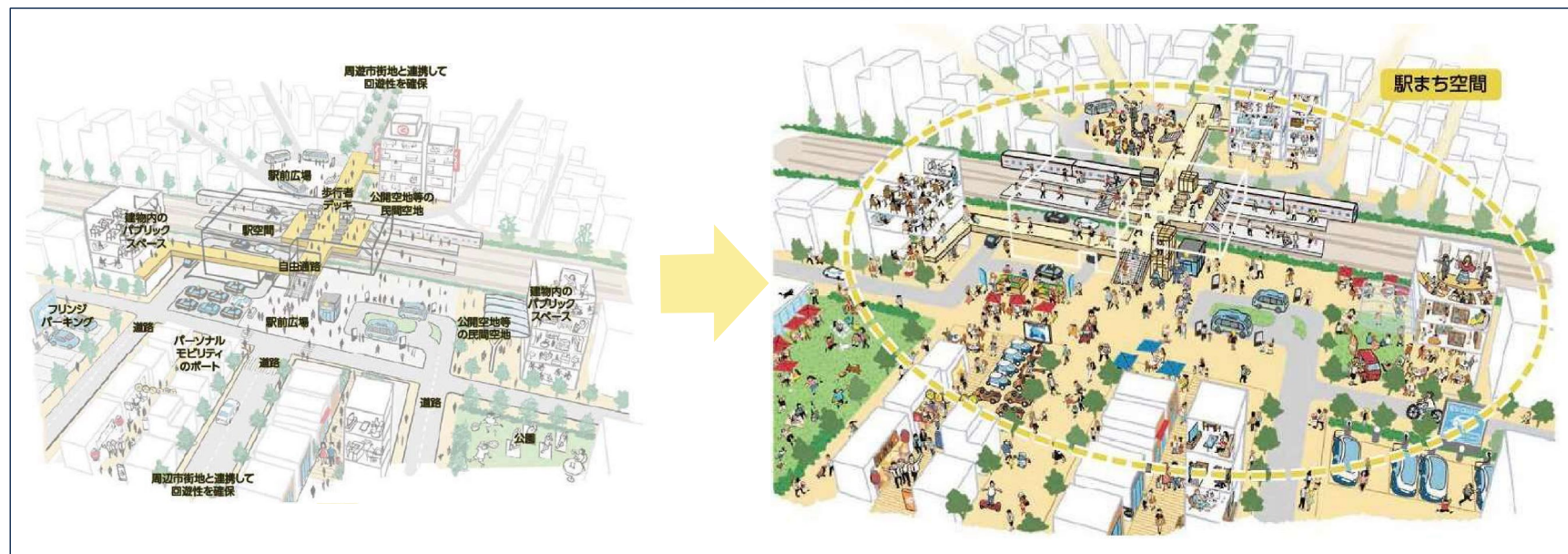
また、エリア内の中心に位置する、駅・駅前広場と周辺市街地を一体的な「駅まち空間」として捉え、快適で過ごしやすい交通結節点の改善と周辺まちづくりの連携を図りながら、駅まち一体の整備を検討する。

▼「居心地が良く歩きたくなるまちなか」のイメージ



出典：「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」提言（令和元年6月）

▼目指すべき駅まち空間のイメージ



出典：駅まちデザインの手引き（令和3年9月）

4. (仮称) ウォーカブルエリア内の新たなネットワーク形成の必要性

● (仮称) ウォーカブルエリア内の課題

本ガイドラインでは、王子駅前エリアを(仮称)ウォーカブルエリアとし、歩行者優先で回遊性の高いまちづくりを推進していくエリアとして位置付けますが、王子駅周辺まちづくりグランドデザインでは、下記のように、JRや幹線道路、石神井川によるまちの分断が課題として整理している。

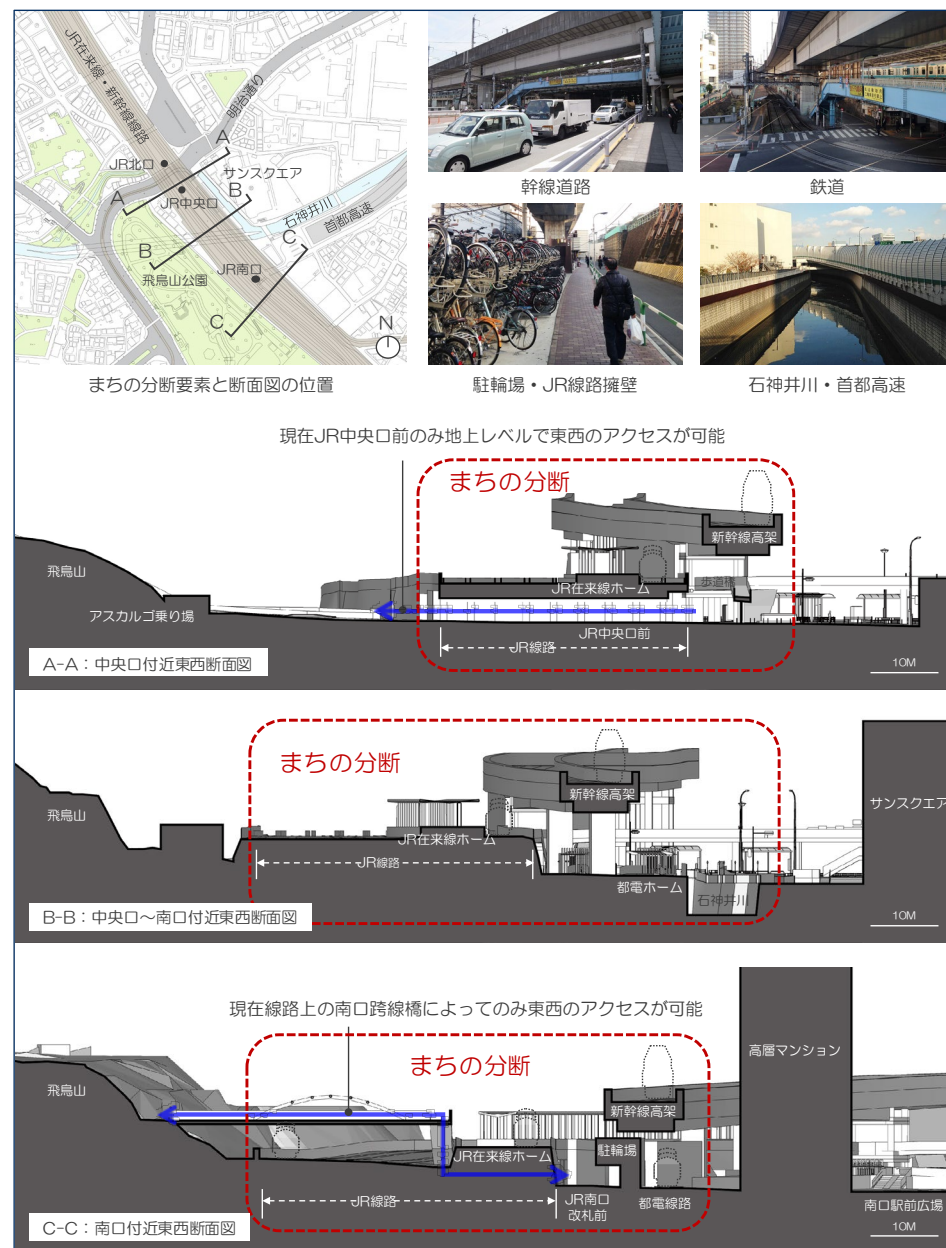
● 王子駅周辺まちづくりグランドデザインより

■ JRや幹線道路、石神井川は、地域の魅力要素であると同時に、その構造物が王子駅周辺の回遊性を阻害している。

○ 明治通りや北本通り、首都高速道路などが歩行者の回遊を分断しており、特に高齢者、障害者、乳幼児同伴者等の移動が困難である。

○ 駅を挟んだ東西のまちが、崖線や鉄道により分断されており、アクセスも悪くまち全体の一体性が希薄である。

○ 石神井川も地区の南北を分断している要素のひとつとなっている。

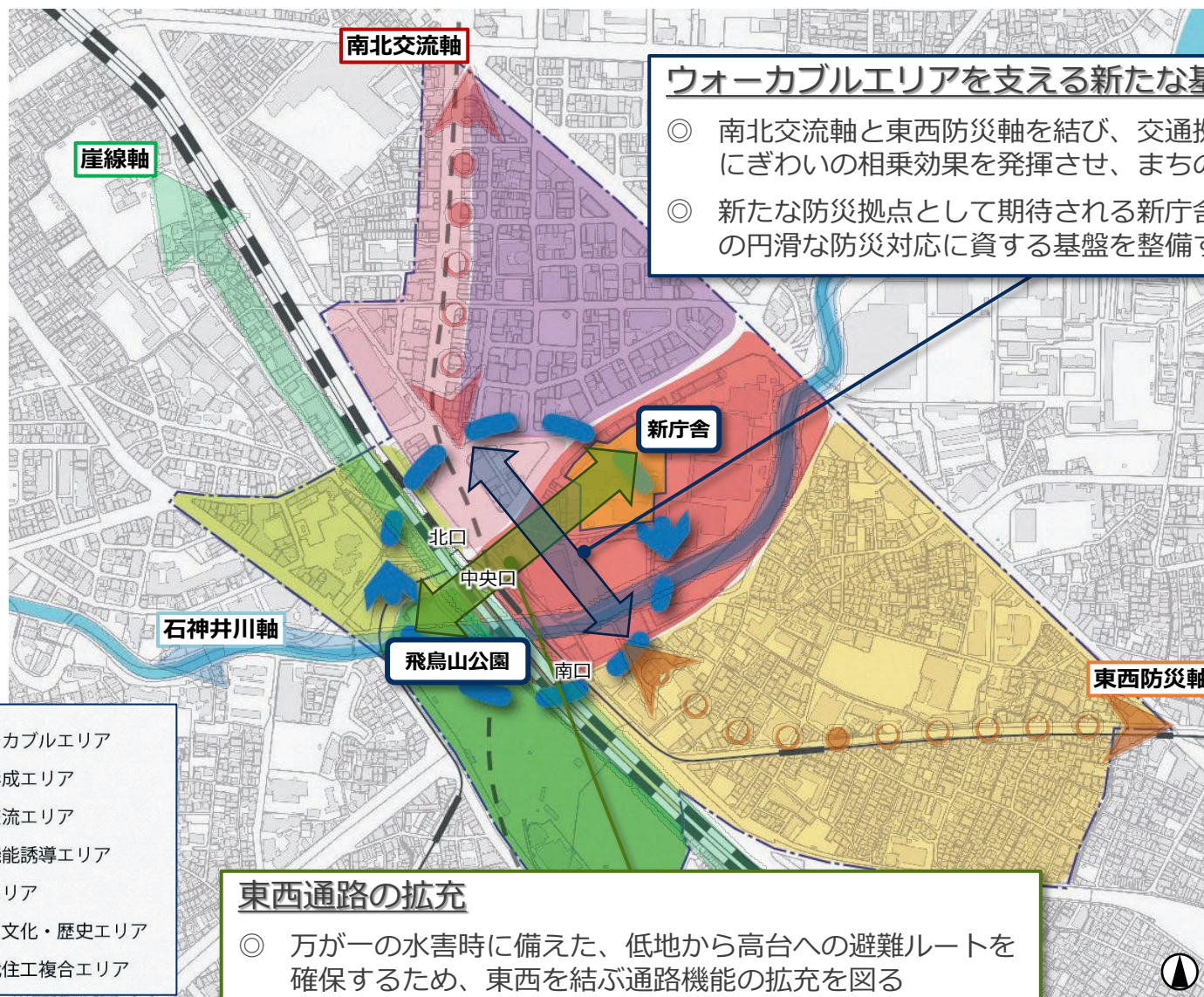


出典：王子駅周辺まちづくりグランドデザイン（平成29年7月）

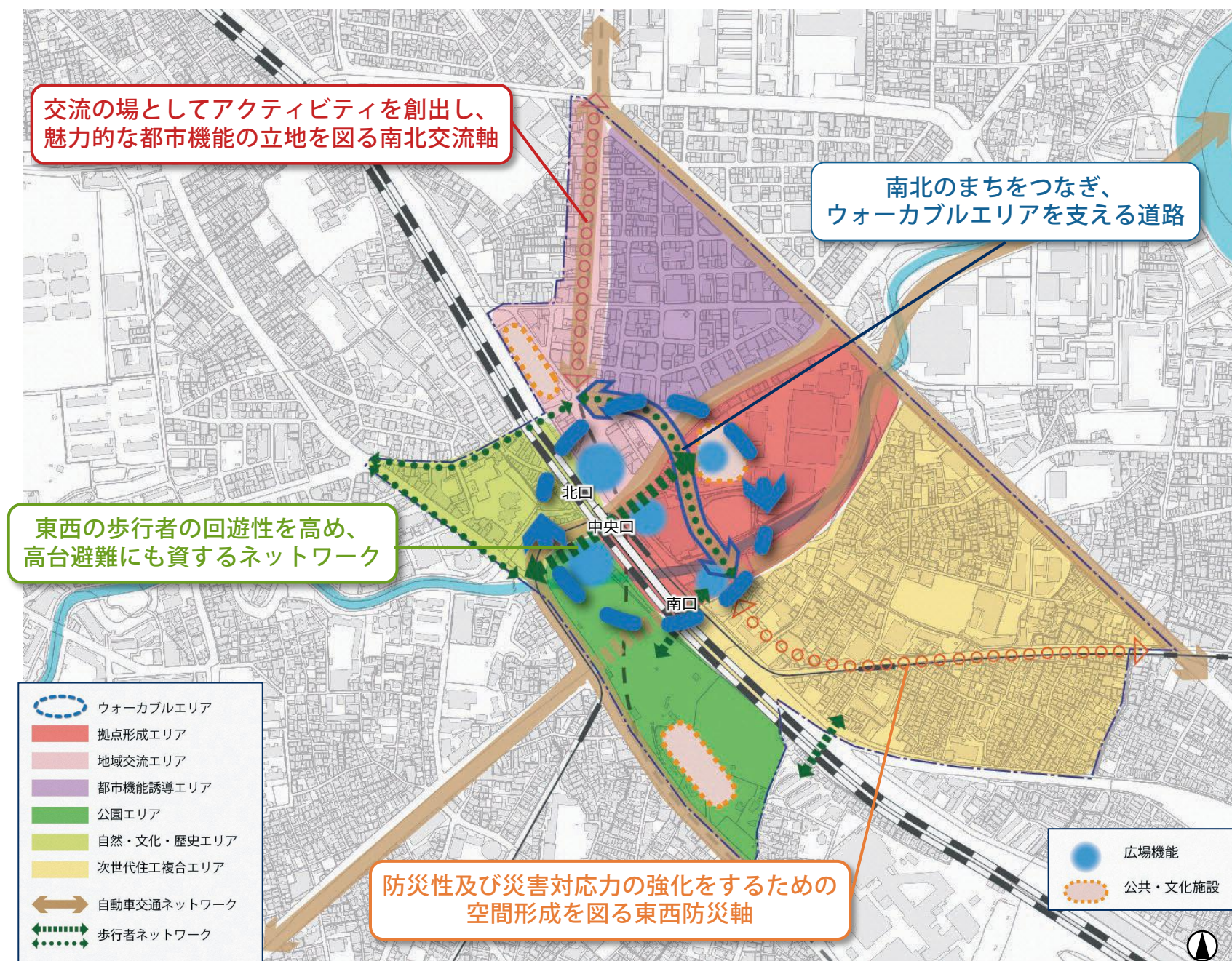
4. (仮称) ウォーカブルエリア内の新たなネットワーク形成の必要性

ウォーカブルエリア内のネットワークの考え方

- ◎ 駅周辺で地形的な分断要素となっている石神井川軸・崖線軸を横断し、**エリア間をつなぐ新たな基盤を整備**

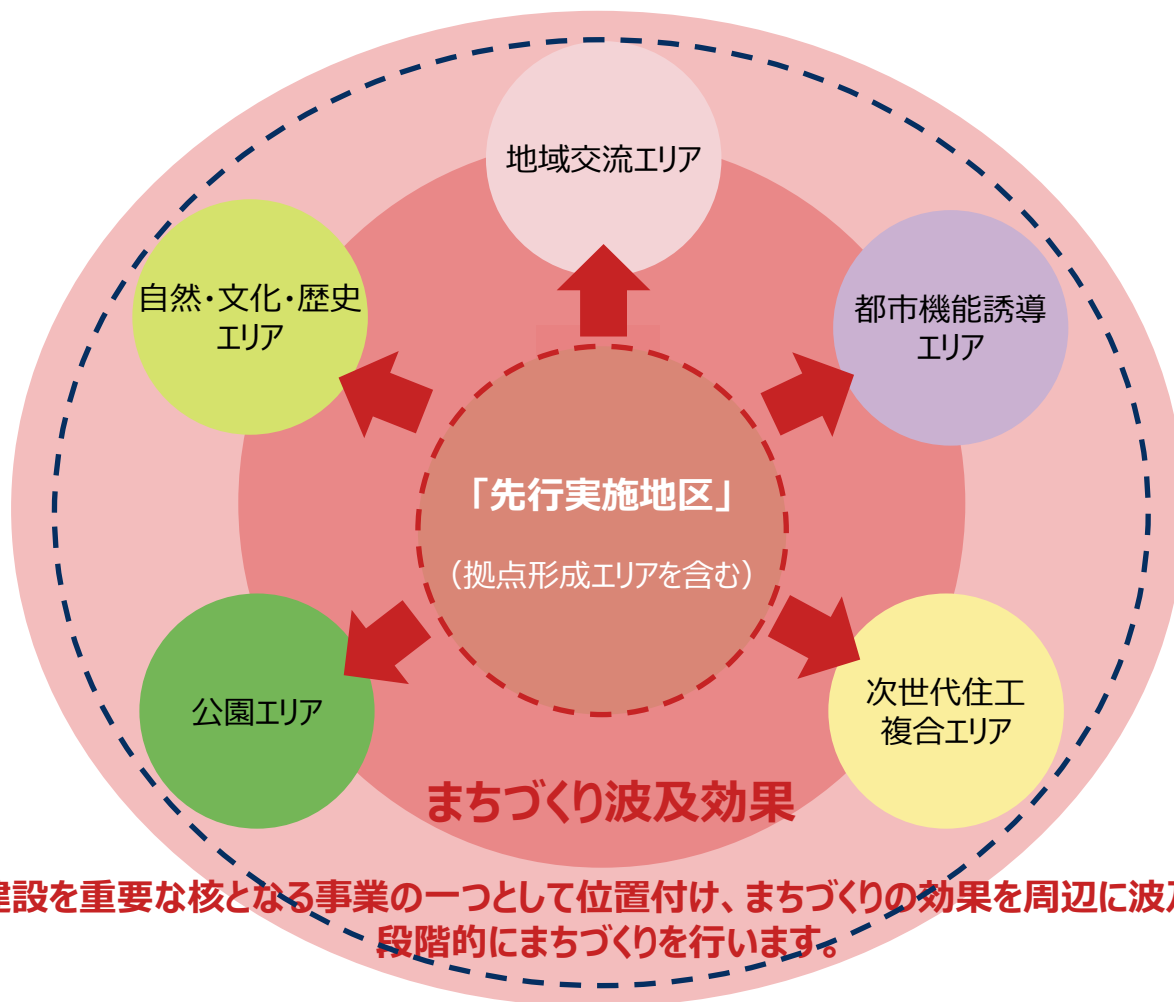


5. 王子駅周辺の将来都市構造図（案）



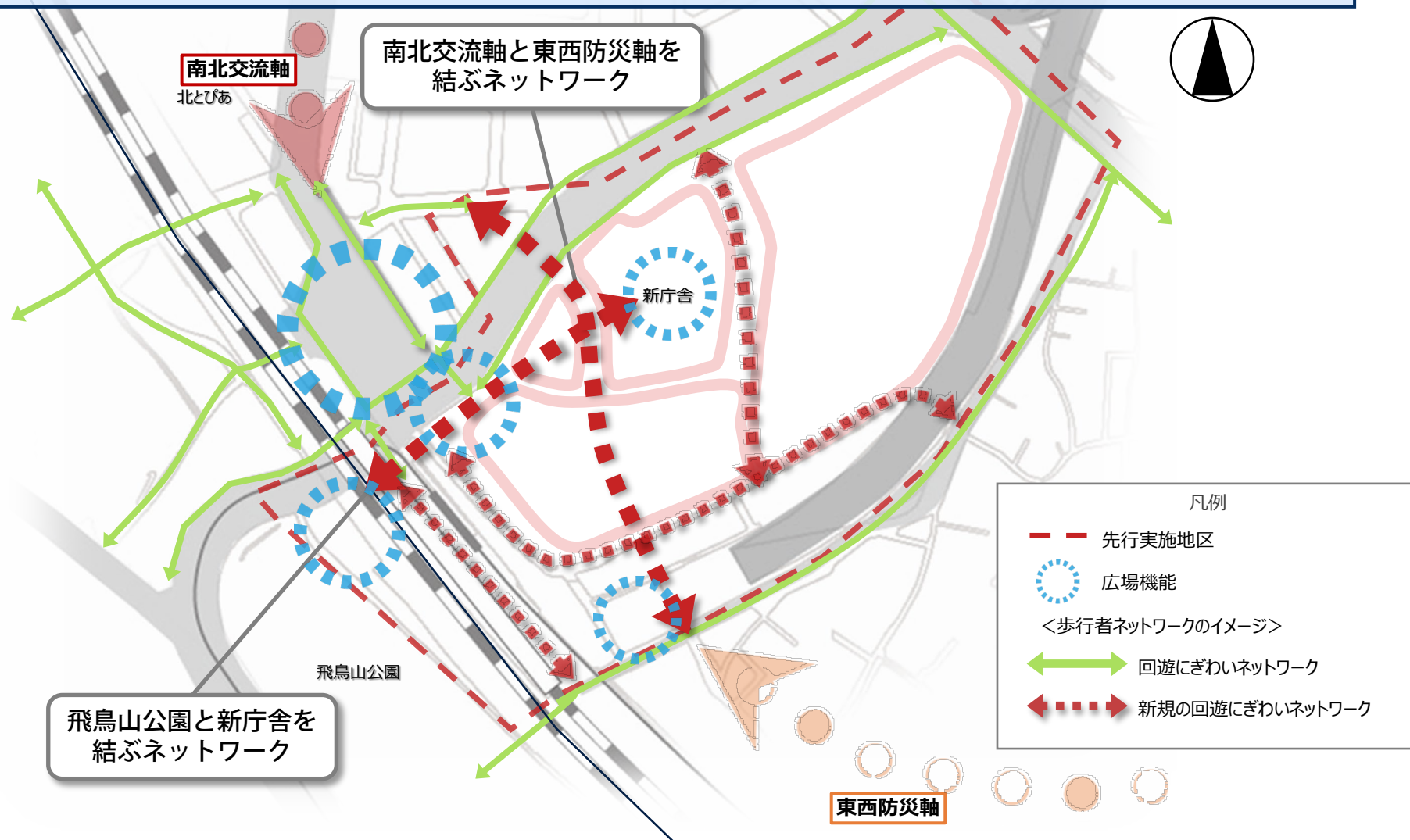
6. 先行実施地区の位置づけ

- 拠点形成エリアは、印刷局工場用地の一部を北区新庁舎建設予定地として決定しており、現在、土地譲渡に向けた印刷局王子工場の建替えなど、大規模な土地利用転換が予定され、**開発ポテンシャルの高い区域**です。
- また、飛鳥山公園のPark-PFI事業やＪＲ王子駅の改良検討など、隣接する箇所でも様々なまちづくりが進みつつあります。
- この新庁舎建設に合わせて、拠点形成エリアとその周囲の一部で、**エリア間をつなぐ新たな基盤整備**と一体的に多様な機能を集積させ、**活力とにぎわいの拠点形成**を図ることが求められています。
- これらの動きを踏まえ「**先行実施地区**」を位置づけ、優先的に事業化を図ります。



7. 先行実施地区の歩行者ネットワークイメージ

- 先行実施地区では、駅前を中心に歩行者の回遊性を高めるネットワーク形成を図ります。
- 歩行者が快適に滞在でき、憩いの空間にもなる広場機能の整備を誘導し、駅前の顔づくりを行います。
- まちの軸や駅前の各広場空間を結ぶよう「回遊にぎわいネットワーク」を形成し、効果的に緑を配置することにより、にぎわいと潤いをまち全体に波及するようなネットワーク形成を図ります。

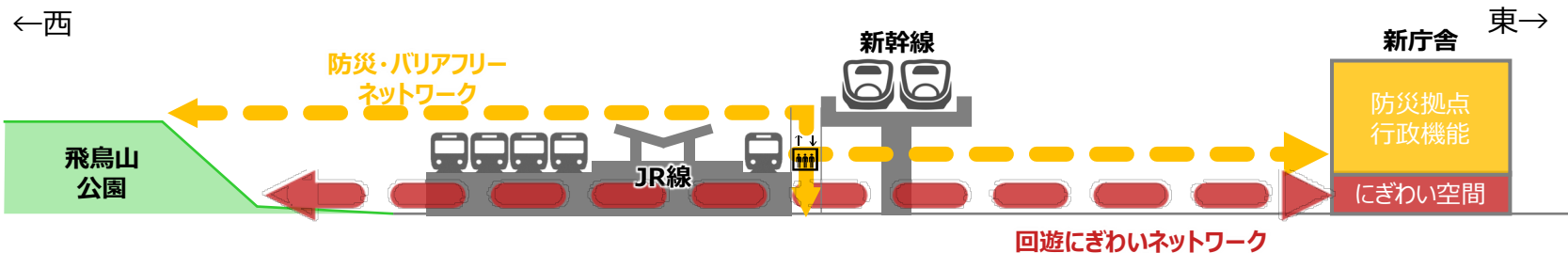


※本図は歩行者ネットワーク等の互いの位置関係をイメージとして示したもので、特定の位置を示すものではありません。

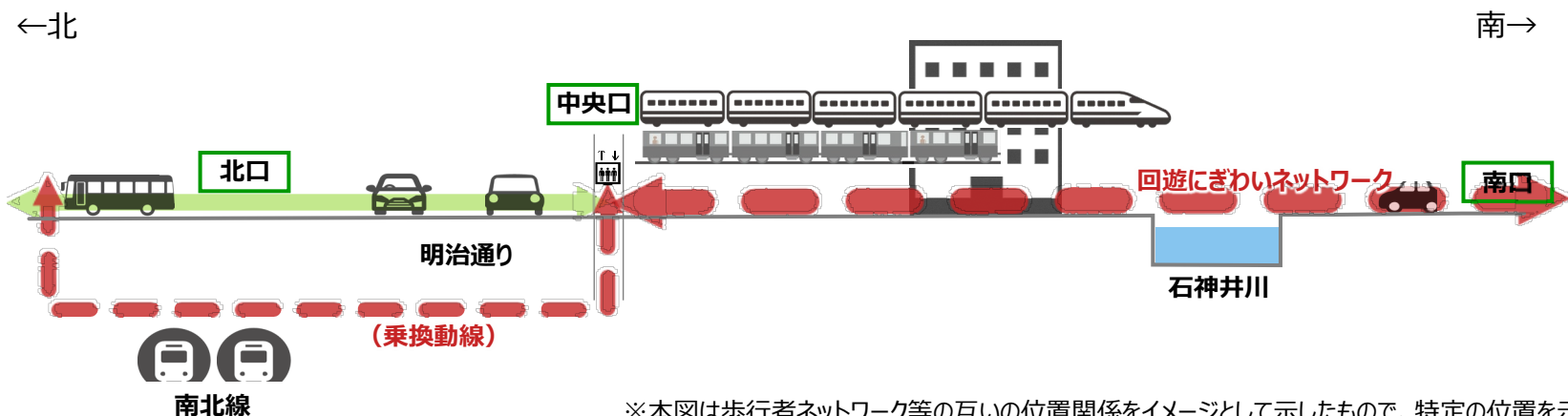
8. 先行実施地区の歩行者ネットワーク断面イメージ

- ・ 有事の際には防災拠点となる新庁舎と高台で避難場所でもある飛鳥山公園を防災・バリアフリーネットワークで結ぶことを検討します。
- ・ 防災・バリアフリーネットワークが実現すれば、水害時の高台避難を円滑にするとともに、新庁舎の防災拠点機能維持にもつながります。
- ・ 周辺の開発にあわせて、この防災・バリアフリーネットワークと接続することで、歩行者の回遊性向上にもつながることが期待できます。
- ・ 防災・バリアフリーネットワークの実現にあたっては、JR線、新幹線、南北線、都電、石神井川など駅周辺構造物との位置関係、整備手法や施工方法等いくつかの課題検証が必要になります。今後、このイメージを基に関係機関等と協議をすすめ、実現に向けて検討していきます。

●東西断面イメージ

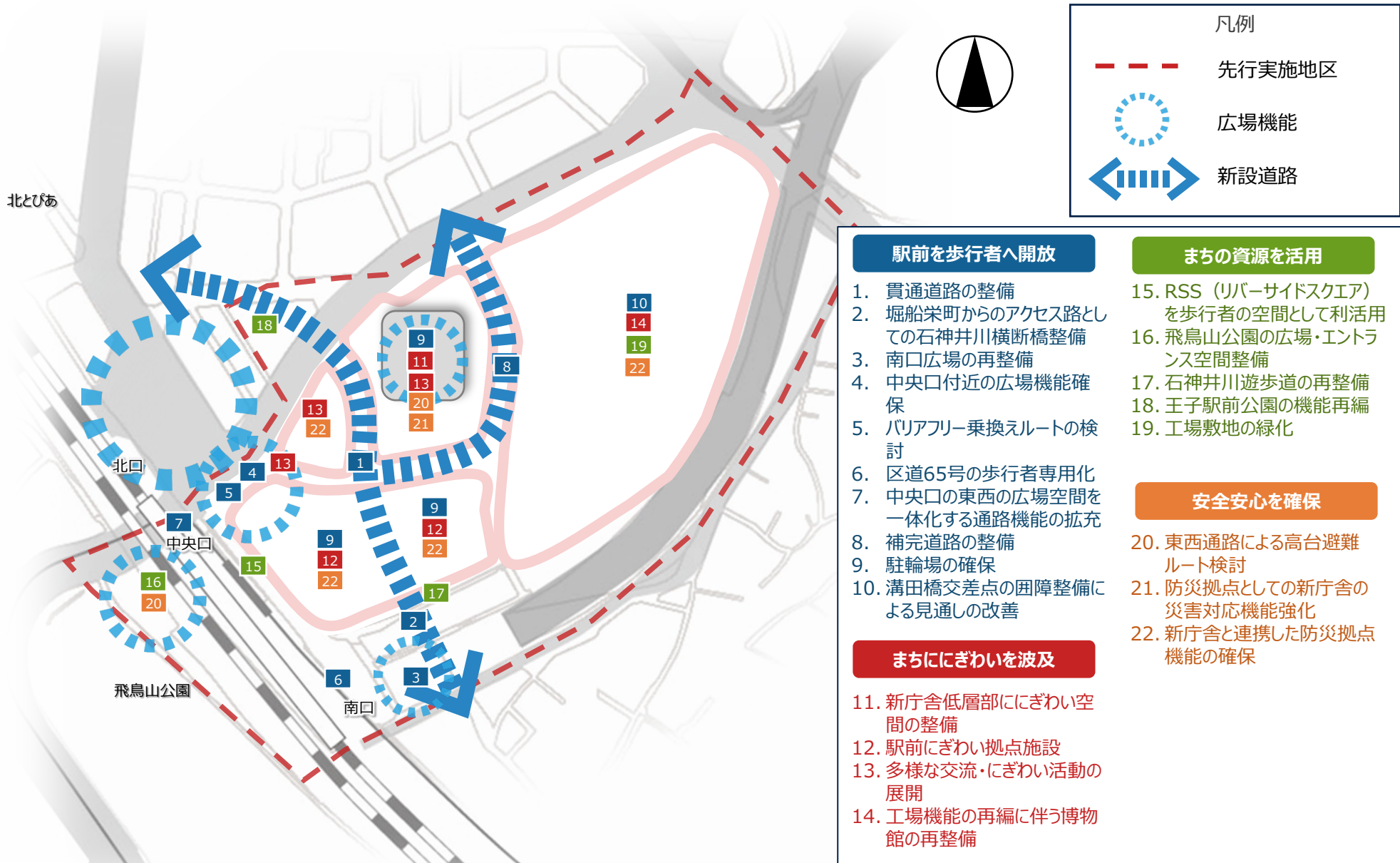


●南北断面イメージ



※本図は歩行者ネットワーク等の互いの位置関係をイメージとして示したもので、特定の位置を示すものではありません。

9. 先行実施地区のまちづくり整備計画（案）



※取組の位置等、今後、関係者間と調整を行いながら検討を進めます。

10. 王子まちづくりオープンハウスの実施要領

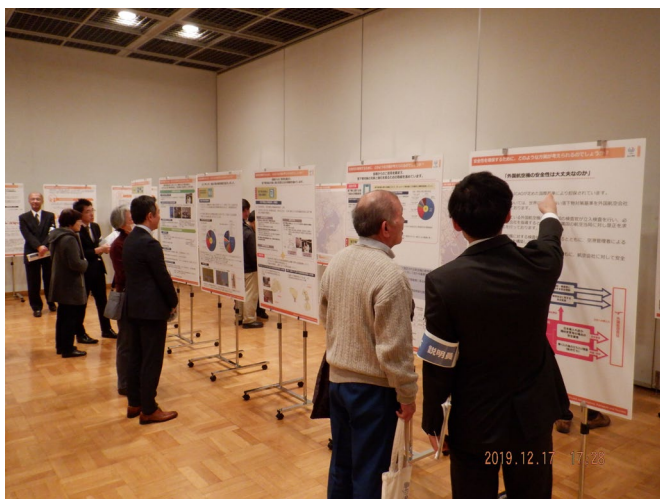
- ・王子まちづくりオープンハウスとは、開催時間内に自由にご来場いただき、説明パネル等の展示とあわせて、区の職員がまちづくりの取り組み状況などについて説明をしながら、これからのまちづくりについて対話する場です。

【予定】

場所：北とぴあ 展示ホール

日程：令和4年5月27日（金）、28日（土）、29日（日）

- ・オープンハウスの実施にあわせて、動画コンテンツの配信による情報提供を予定しています。また、動画のページからのリンクによりWEBアンケートを行う予定です。



オープンハウスのイメージ写真
(羽田空港機能強化に関する住民説明会 @北とぴあ展示ホール)

1 1. 第3回検討会に向けて

令和3年（2021年）			令和4年（2022年）												令和5年（2023年）		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1回検討会			第2回検討会				オープンハウス		第3回検討会			第4回検討会		パブリックコメント			ガイドライン策定

第1回【キックオフ】

現況整理、課題共有
まちづくりのコンセプト
「ミッション」、「戦略」、「プロジェクト」

第2回【整備構想】

先行実施地区の
まちづくり

第3回【素案】

まちづくりガイドライン
（素案）
公民連携の考え方
ウォークブルエリア名称
まちづくりスケジュール

第4回【案とりまとめ】

王子駅周辺まちづくり
ガイドライン（案）とり
まとめ

第1章 はじめに

- 1.1 ガイドラインの背景と目的
- 1.2 ガイドラインの位置づけと役割
- 1.3 まちづくりガイドラインの構成と対象エリア

第2章 王子駅周辺まちづくりの背景

- 2.1 王子駅周辺のまちづくりの経緯
- 2.2 上位計画等における位置づけ
- 2.3 王子駅周辺の現況
- 2.4 グランドデザイン策定後の社会的な動向
- 2.5 まちの特性（魅力）と課題再整理

第3章 まちの将来像

- 3.1 まちの将来像、基本方針
- 3.2 まちづくりのコンセプト、ミッション

第4章 まちづくりの戦略

- 4.1 まちづくりの戦略
- 4.2 まちづくりプロジェクト
- 4.3 エリア区分について
- 4.4 エリア別のまちづくりの方向性
- 4.5 将来都市構造図とまちの骨格軸

第5章 先行実施地区における整備計画

- 5.1 まちづくりの方向性
- 5.2 重点的な取組
- 5.3 整備計画図

第6章 まちづくりの実現に向けて

- ・公民連携の考え方、まちづくりスケジュール など

参考資料

- ・用語解説 など

＜各章と検討会の議題＞

第1章～第4章	←	第1回検討会
第5章	←	第2回検討会
第6章	←	第3回検討会